

秦神社御由緒記



秦神社御社殿



若宮霊廟秦分祠兼
秦神社社務所



若宮八幡宮



レンタサイクル

宗教法人 秦神社

〒781-0270 高知市長浜857-1 TEL.088-841-2464(若宮八幡宮)

四国霊場33番札所 雪隠寺 東隣

若宮八幡宮ホームページ <http://wakamiya-kochi.com/>



長宗我部元親公を主祭神と仰ぐ
日本国内でただ一つの社。

秦神社崇敬会のご案内

日本国内でただ一社、長宗我部元親公を主祭神と仰ぐ秦神社では、崇敬会の会員を募集しています。長宗我部元親公を始めとする御祭神を慰霊、顕彰し、その遺徳を普く敷衍し、郷土の発展に寄与することを目的とし、祭儀の厳修、友好諸団体との交流などを行っています。なお、崇敬会入会の際には会員証を発行しています。

会員の特典

- ・御神札の授与
- ・社報の送付
- ・祭典の御案内
- ・会員証の発行

特に希望する会員の方は、宗旨を問わず、秦神社の祖霊舎（若宮霊廟秦分祠）に先祖の御霊を合祀し、日々の日供祭、慰霊祭を御奉仕致します。その場合、向山会規則に準拠した別途料金を申し受けます。

会費 一口 一、〇〇〇円

秦神社御由緒記

御由緒

長宗我部氏の菩提寺であった雪蹊寺が、廃仏毀釈の嵐の中で、明治三年廃寺となったため、元親の弟の親房の子孫と称する島弥九郎与助たちは、土地の有志たちとともに再三高知藩庁に働きかけ秦神社の創建を請願し、同年十二月許可が下った。

そこで、雪蹊寺に安置されていた元親公木像（県指定文化財）、肖像画（国指定の重要文化財）、戸次川戦没者の霊板、山内忠義奉納の絵馬などを貰い受け、明治四年、因縁ある長浜城山麓の元の雪蹊寺跡に創建した。



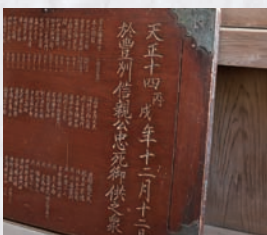
主祭神である元親公は前の土佐の太守で、慶長四年五月十九日、山城の伏見館で薨去され、遺言により遺灰を土佐長浜の天甫寺山に埋葬し、高福山慶雲寺、即ち現在の雪蹊寺を菩提寺と定められた。大坂夏の陣で長宗我部氏は滅亡し、土佐は山内家の治めるところとなったが、山内家は雪蹊寺に寺領二〇〇石を下し香典とし、その後、寛政九年五月には二〇〇年法要を、また嘉永元年五月には二五〇年法要を行った。



明治の御代となり、秦神社創建後は明治三十二年五月に秦神社に於いて三〇〇年忌祭を行い、昭和三年十二月十日、昭和天皇が御即位の大典をあげられた当日、元親公に対し正三位が追贈され、さらに昭和十七年八月十五日、県社に昇格した。戦後はこのような社格もなくなり、昭和二十八年、宗教学人秦神社となり今日に至る。

平成十二年五月二十三日、元親公没後四〇〇年の節目に、公が初陣に臨み戦勝

を祈願した若宮八幡宮の境内地、鎮守の森公園に初陣銅像が建立され、更に同年十二月四日、銅像前で神仏合同による四〇〇年遠忌法要が盛大に執り行われた。



戸次川戦没者の霊板

平成十九年四月十四日、シート防水工法による拝幣殿の御屋根修復工事が完工。平成二十年十月二十二日には神葬家の御霊を預かる若宮霊廟の秦分祠、並びに秦神社社務所が完成した。大坂城落城四百年を迎えた平成二十七年には、長宗我部盛親公四〇〇年忌祭が秦神社で執り行われ、また境内には盛親公の御遺徳を偲び顕彰する有志達により、慰霊碑が建立された。



長宗我部盛親公慰霊碑



絹本着色長宗我部元親画像
※高知県立歴史民俗資料館に委託保管

御祭神

主祭神 長宗我部少将元親霊
付祭神 秦家代々霊 家臣忠死の徒霊

鎮座地

高知市長浜門前八五七の一

御創建

明治四年四月七日

御社殿

流造り

御社紋

鳩酢草（かたばみ）紋

祭礼日

例 祭 十月十三日
夏祭り 七月二十日

社宝

- ・絹本着色長宗我部元親画像（国重要文化財）
- ・元親座像（高知県指定文化財）
- ・長宗我部地検帳写本（長浜地区）
- ・戸次川戦没者霊板
- ・山内忠義公奉納絵馬

境内社

西宮神社 竈戸神社 鎮八幡宮、
祖霊舎（氏子先祖宮） 若宮霊廟秦分祠



若宮霊廟秦分祠兼秦神社社務所



秦神社御社頭